

研究者交流支援制度 特別講義報告書

会計専門職研究科専任教授 渡邊雅雄

招聘者氏名： Dr. Alain Jean Michel Burlaud (Professor emeritus, Conservatoire National des Arts et Métiers)

招請責任者： 渡邊雅雄 (会計専門職研究科)

特別講義タイトル： IFRS versus national standards: a sovereignty conflict.
The French case in a European environment.
(IFRS 対 国内基準：主権との対立
ヨーロッパにおけるフランスのケース)

特別講義日時： 2022 年 10 月 20 日 (木) 19:00-20:40

会場： 明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン 9 階 309J 教室

開催形態： ハイブリッド (対面と Zoom)

使用言語： 英語

参加者数： 11 名 (招聘者および招請責任者を含む)
内訳：対面 6 名, Zoom 5 名

2022 年 10 月 20 日 (木) にアラン・ビュルロー先生の特別講義を実施した。当日は、ビュルロー先生をご紹介した後、ビュルロー先生の特別講義を実施した。特別講義の構成は次のとおりであった。

1. 歴史
2. 連結財務諸表の出現
3. IFRS とプラン・コンタブル・ジェネラル (plan comptable général : PCG) との概念上の差異
4. 多様な利害関係者を対象とする報告
5. 結論

上記 1 から 5 のセクションごとに Q&A の時間を設けた。ビュルロー先生と参加者との間で活発な質疑応答が行われた。講義の最後に、講義内容の概要を招請責任者：渡邊から日本語で補足した。

ビュルロー先生の講義では、フランスの会計基準が多様な利害関係者を対象としていることを前提として、そのような特徴を有するフランス会計基準の現状が、連結財務諸表と多様な利害関係者への報告の観点から明らかにされていた。

まず、連結財務諸表の観点からは次の点が指摘された。世界貿易量と外国直接投資の拡大を背景として、フランスでは 1980 年代から段階的に連結財務諸表に関する会計基準の整備が進んできた。1986 年 PCG に連結会計原則が追加され、1999 年に新たな連結会計基準

(CRC 規則 99-02 号) が公表された。CRC 規則 99-02 号では、連結財務諸表と民法・税法とを結びつけていない。個別財務諸表と連結財務諸表は異なる会計原則を基礎としており、連単分離の財務報告システムが出現したことが指摘されていた。

次に、多様な利害関係者への報告の観点からは次の点が指摘された。すべての企業は公共サービスを利用しているが、特に大企業には負の外部性をもたらしているものもある。大企業と政府との間で争いが生じたり、大企業が公益の脅威となったりする可能性がある。その結果、大企業のパワーの正統性に疑念が生じている。こうした問題の解決策として、次の 2 つが提示されていた。第 1 に、企業の開示情報が行為遂行的発話と捉えられるようになっていく。第 2 に、企業の報告範囲が拡張され、非財務情報の開示が義務付けられている。この場合の非財務情報には、企業の社会的責任や環境保全、人権保護や汚職防止などの取組みが含まれている。